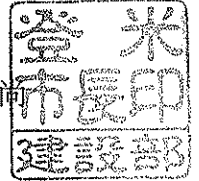


19登土 第94号  
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 殿

登米市長 布施 孝尚



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について(報告)

日頃より当市が実施する事業につきましては、特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成19年4月2日付国道企第114号で依頼のあったこのことについて、別添のとおり報告いたします。

## 登米市の概要

本市は、宮城県北東部に位置し、北は岩手県に接しています。西部は丘陵地、北上川左岸の東部は山間地、その間を県内有数の穀倉地帯を形成する肥沃な登米耕土が広がっており、面積は536.38km<sup>2</sup>と仙台市、大崎市、栗原市、石巻市に次いで県内第5位の広さを有しています。

人口は、平成17年国勢調査において89,316人で、平成12年国勢調査時より約4.8%減少しており、年齢別3階層人口は昭和60年から平成17年の20年間に年少人口の割合が21.4%から12.9%に減少していますが、逆に高齢人口の割合は14.6%から27.3%に増加しており、少子高齢化が進んでいます。

産業は、米を中心とした土地利用型農業を中核としていますが、産業別にみた就業者の動向は、農林業などに従事する第2次産業から工業や商業等に従事する第2次産業と第3次へ転換が進み、特に第1次産業は昭和55年から平成17年の25年間で約5分の2に減少していますが、平成17年の第1次産業就業者の比率16.9%は、県平均(6.3%)を大幅に上回っており、本市の基幹産業としての役割を担っています。

また、工業等の第2次産業就業者比率32.6%は、県平均より高くなっていますが、商業等の第3次産業就業者比率50.6%は、県内の他圏域と比較すると最も低くなっています。

交通網は、国道45号、342号、346号、398号及び国道456号を中心として、主要地方道7路線及び一般県道15路線を骨格に形成されています。

また、鉄道はJR東北本線が北西部の迫町と石越町、JR気仙沼線が南部の豊里町と南東部の津山町を走っていますが、東北縦貫自動車道や東北新幹線など、東北地方の動脈的役割を担う広域高速交通網との距離があるうえ、これらに接続する道路網の整備が遅れている状況にあります。

しかし、現在整備中の「みやぎ県北高速幹線道路」や石巻市まで開通した「三陸縦貫自動車道」が本市まで延伸されることにより、様々な効果が期待されています。

また、「登米圏域・古川間連絡幹線道路」も東北縦貫自動車道と本圏域を結ぶ重要なアクセス道路として完成が待ち望まれています。

## 道路整備に関する中長期計画に関する意見

### 1. 高速道路網の整備について

登米市のまちづくりの基本となる総合計画では、「安心・安全」、「産業・定住」、「環境・健康」をキーワードに、それぞれの地域が培ってきたまちづくりを尊重しながら、均衡ある地域の発展と、若者をはじめ多くの人々が「定住」するまちづくりを進めることとしております。

市民の「安心・安全」を守るうえでは、地域医療の充実が求められています。住民サービスの視点で、市内で全ての疾患に対応する質の高い医療を24時間体制で提供することが望ましいわけですが、医師の都市部偏在による地方の医療機関における医師不足が深刻化している状況にあります。緊急時において速やかに適切な処置が受けられるよう、高度医療施設への早急・安全なアクセスを可能とする高規格幹線道路の整備が急務であります。

また、「活力のあるまちづくり」を推進していく上で、産地間競争に勝ち残るためには農畜産物の流通コストの引き下げが不可欠であり、消費地と生産地の流通時間の短縮が必須となります。

本市で育ち・学んだ若者の定住化を促進するためには、雇用の場を確保することが重点課題となり、工業団地の造成や環境整備を検討し、先進的で精密・高度な技術をもつ優良企業の誘致活動を図り、魅力ある就労の場を確保することが若者の定住につながり、政策的増加人口を誘導することが可能となります。

#### ●具体的な整備路線とその整備効果

##### 【三陸縦貫自動車道の早急な整備】

- ①先進的で精密・高度な技術をもつ優良企業の誘致活動を図り、魅力ある就労の場を確保することにより若者の定住化を促進することができる。
- ②消費地と生産地の流通時間が短縮されることにより、農畜産物の流通コストの引き下げが可能となり産地間競争に勝ち残ることができる。
- ③石巻赤十字病院へ患者を搬送することにより、緊急時に適切な処置が受けられ市民の「安心・安全」を守ることができる。

##### 【東北縦貫自動車道築館ICと本市を結ぶ宮城県北高速幹線道の早急な整備】

- ①先進的で精密・高度な技術をもつ優良企業の誘致活動を図り、魅力ある就労の場を確保することにより若者の定住化を促進する。
- ②消費地と生産地の流通時間が短縮されることにより、農畜産物の流通コストの引き下げが可能となり産地間競争に勝ち残ることができる。
- ③世界遺産登録予定の「平泉」との時間が短縮し、「平泉」の観る観光と本市の体験型観光が同時に可能となり、観光客の志向に応じた観光ルートを確立することが可能となる。

##### 【東北縦貫自動車道長者原SICと本市を結ぶ登米圏域・古川間連絡幹線道の早急な整備】

- ①先進的で精密・高度な技術をもつ優良企業の誘致活動を図り、魅力ある就労の場を確

保することにより若者の定住化を促進する。

②消費地と生産地の流通時間が短縮されることにより、農畜産物の流通コストの引き下げが可能となり産地間競争に勝ち残ることができる。

③仙台医療圏の大規模病院、高度医療施設へ患者を搬送することにより、緊急時に適切な処置が受けられ市民の「安心・安全」を守ることができる。

## 2. 国道の整備について

東北地方における道路網の実態は、直轄国道はほんの一部であり、本市の概要でも示しておりますとおり、ほとんどが補助国道であり、狭隘な箇所や、自歩道の未整備な路線が多く、整備に着手したばかりの現況にあります。

最近国内各地で頻発している強い地震に加え、近い将来高い確率で発生が予想される宮城県沖地震や集中豪雨等の災害により、東北地方を縦軸に走る東北縦貫自動車道や現在整備中の三陸縦貫自動車道に万が一の被害が発生した場合、緊急輸送路として県北地方での横軸を結ぶ国道の役割は、市民が安全に安心して暮らせる「やすらぎのあるまちづくり」を進める本市にとっては、極めて重要な役割を担うことになり早急な国道の整備が望まれます。

### ●具体的な整備路線とその整備効果

【宮城県沿岸部と内陸を結ぶ国道346号、398号の狭隘箇所及び自歩道の早期整備】

①生産地と消費地を結ぶ農畜海産物の物流ルートとして確立する。

②東北地方を縦軸に走る東北自動車道、三陸縦貫自動車道及び国道45号に万が一の被害が発生した場合、緊急輸送路の役割を担うことが可能となる。

【岩手県と宮城県を連絡する国道342号、456号の狭隘箇所及び自歩道の早期整備】

①東北地方を縦軸に走る東北自動車道、三陸縦貫自動車道及びに万が一の被害が発生した場合、副縦軸路線として、宮城県北と岩手県との緊急輸送路の役割を担うことが可能となる。

②重要港湾の石巻工業港と岩手県を結ぶ物流ルートとして確立することができる。

③南三陸金華山国定公園と平泉の二大観光地の中間地として北上川を活かした観光地として交流人口の拡大を図ることができる。

## 3. 県道整備について

市内には、北上川・迫川が南北に貫流しており、東西3地区に分かれた地形となっており、県道網はこれらを相互に連絡し隣接生活圏との接続を図るため主要道路として、主要地方道8路線、一般県道15路線が相互に補完しながら各地を連絡し道路網を形成しています。

平成17年4月に9町が合併した本市は市域が広く、本市と他都市・圏域を結ぶ都市間道路、高規格道路・新幹線・JR在来線へのアクセス道路となる道は、県道がほとんどで

重要な役割を担っています。

また、高規格道路、新幹線、JR在来線へのアクセス道路の整備を進めることにより、他圏域との人と物の交流を活発にし、体験型・滞在型・週末利用型等の交流人口の拡大を図り、農業関連所得の向上を図るとともに、市内にある歴史的建造物、街並み景観や自然環境を活用し、観光客の志向に応じた観光ルートを観光客自らが選択し、観るだけでなく、参加・体験できる体制を整備し、「観光振興」に向けた視点からも県道の整備は不可欠と思われま

#### ●具体的な整備路線とその整備効果

##### 【三陸縦貫自動車道へのアクセス道路整備】

桃生・豊里IC、桃生・津山ICへの連絡道として、主要地方道河南・米山線と登米IC（仮称）への連絡路線となる、現在工事中の登米インター線の早期完成。

- ①人と物の交流を活発にし、体験型・滞在型・週末利用型等の交流人口の拡大を図ることができる。
- ②先進的で精密・高度な技術をもつ優良企業の誘致活動を図り、魅力ある就労の場を確保することにより若者の定住化を促進することができる。
- ③消費地と生産地の流通時間が短縮されることにより、農畜産物の流通コストの引き下げが可能となり産地間競争に勝ち残ることができる。

##### 【東北新幹線への連絡路線として道路整備】

東北新幹線古川駅、くりこま高原駅への連絡路線となる、主要地方道古川・佐沼線、中田・栗駒線の早急な整備。

- ①人と物の交流を活発にし、体験型・滞在型・週末利用型等の交流人口の拡大を図ることができる。
- ②仙台市へのアクセス時間短縮により、通勤可能地域として本市の優良住宅地を活用し若者の定住化を促進することができる。

#### 4. 市道の整備について

市内の均衡ある発展を目標に、市内各地域の素材・資源を活用した個性ある中心市街地の整備・再生を図るとともに、市民生活に身近な生活関連道路の整備を推進し、市内外の人々の利便性を考慮した市道網の形成を図り、市街地内における交通渋滞を解消し、通勤・通学時における混雑を緩和するなど、利便性が高く安全で快適に利用できる環状道路等の道路ネットワークの形成を目標に市道整備を実施し、市民の日常生活に最も身近な生活関連道路及び道路施設の整備に努め、「ゆとりのあるまちづくり」を推進します。

現在、市においては「道路整備10カ年計画」を策定中であり、道路財源を集中的かつ効果的に投資することにより既存の道路の付加価値をさらに高めることが可能となります。

最後に、当地域は、関東・関西地域と比較すると公共交通機関も未発達であり、人の移

動、物流においてもその手段としては、道路に頼らざるを得ない状況であり、均衡ある国土の発展のためには、道路整備の財源として、この地方への道路特定財源の継続的な重点配分が是非とも必要であると考えます。